



扇田盆踊りは 5種類の演目で構成

- ① 上り太鼓／会場入りするときの演奏
 - ② 寄せ太鼓／踊り子を呼ぶ演奏
 - ③ 踊り太鼓／ハタギ踊りを踊るとき
の演奏
 - ④ ぶち上げ太鼓／踊り終了の演奏
 - ⑤ 下り太鼓／太鼓が会場から去るとき
の演奏
- ※昔は7、8種類有ったようですが、現在はこの5種類が伝承されています。

扇田盆踊りの構成

扇田盆踊りは、笛、太鼓を中心に左回りで踊ります。踊り手の衣装は自由で、浴衣に鳥追い笠、菅笠などの人が多く、中にはそろいの浴衣や仮装で参加するかたもいます。

笛はシメ太鼓で3尺7寸〜3尺

6年ぶりの復活

商工会青年部を中心に、扇田のお盆行事を復活させようという取り組みがあり、扇田民芸振興会やお寺さんなどがこれに協力する形で、平成15年には「灯笼流し」が10年ぶりに、平成16年には「扇田盆踊り」が6年ぶりに再開されました。

この日を待ちわびていたかたや初めてハタギ踊りを見る子供たちなど、たくさんの方が集まり、扇田盆踊りは新たな歴史の1ページを開くことができました。

次の世代に伝えるのが最大の課題です

地域の誇るべき文化も、伝えていかないと途絶えてしまいます。扇田民芸振興会では、平成2年頃から扇田小学校の子供たちに伝える活動を続けてきました。以来毎年、扇田小学校の運動会では、マ스ゲームの一環として、子供たちが父母と一緒にハタギ踊りを踊ってきました。笛や太鼓も簡単な部分だけは、何人かの子供たちに伝えられました。

しかし、これだけでは現在伝えられている5種類の太鼓や笛



▶大黒渉さんは、小学校3年生から太鼓を始め、一緒に始めたお父さんの笛と共演。

を習得することは難しいため、後継者を育成するための講習会も同時に開いてきました。

それでも講習を受けた子供たちが中学生以降になると、太鼓や笛に触れることも少なくなるため、伝統芸能の継承は困難な時代を迎えました。

再開した盆踊りに戻ってきた若者たち

50年に及ぶ扇田民芸振興会の活動の中でも、笛や太鼓の奏者をチームとして保つことは、大きな課題でした。

設立当初のチームを初代とすれば、現在のチームは2代目ということになりました。

いろいろな事情から、5年間の休止を経て再開した扇田盆踊りには、かつて講習会に参加していた若者や子供たちが何人か参加してくれるようになりました。後継者としてというよりは、たまたま事情が許し、懐かしさや興味から参加してくれているのかもしれない。

それでも、長年にわたって子供たちに伝える努力を続けてきたことの結果と言えるのではないのでしょうか。

彼らがいつの日か、扇田盆踊りの後継者になってくれればと願いながら、関係者からお話を伺いました。